

有明海再生赤潮モニタリング委託事業

夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリング

山田 秀樹・岩永 卓也・中原 啓太・野口 浩介

有明海における貧酸素水塊の消長シナリオの構築及び貧酸素水塊の発生予察手法の検討に資するために、夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリングを行った。なお、本課題の詳細については、「令和5年度豊かな漁場環境推進事業のうち海域特性に応じた赤潮・貧酸素水塊、栄養塩類対策推進事業 (1)赤潮等による漁業被害への対策技術の開発・実証・高度化の報告書」で報告した。

方法

図1に示すSt.T2, T13, P6, P1およびB3の計5定点において、2023年7月13日から9月14日にかけて計8回の調査を実施した。調査項目は、表層における植物プランクトンの細胞密度とした。

結果

各定点における*Chattonella*属、珪藻類および渦鞭毛藻類の細胞密度の推移をそれぞれ図2、図3および図4に示した。

*Chattonella*属は、8月下旬にブルームが確認された。ブルームにおける最高細胞密度は、348cells/mLであった(図2)。

珪藻類の細胞密度は、7月20日のSt.T13、P6、P1およびB3、8月13日の全地点、8月17日のSt.T2で4,562~23,612cells/mLと比較的高密度であった(図3)。

渦鞭毛藻類の細胞密度は、7月20日のSt.B3、7月27日のSt.T2、T13で118~862cells/mLと比較的高密度であった(図4)。

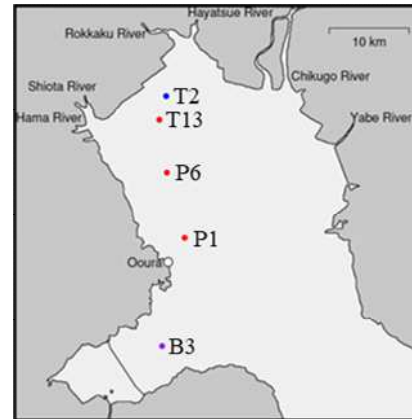


図1 観測地点

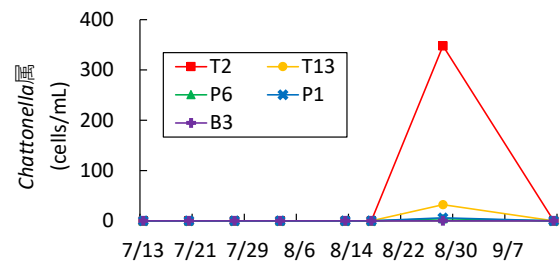


図2 各定点における*Chattonella*属の細胞密度の推移

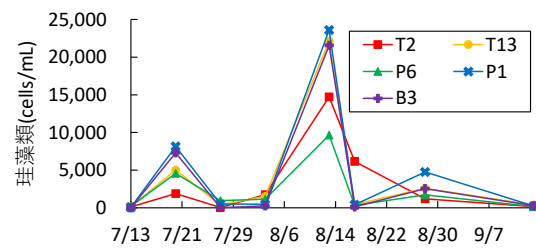


図3 各定点における珪藻類の細胞密度の推移

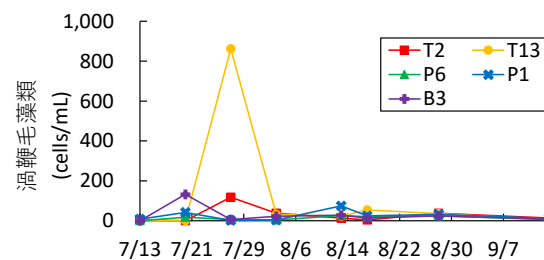


図4 各定点における渦鞭毛藻類の細胞密度の推移